

## 江戸川区景観計画における現況特性

# 江戸川区景観計画における現況特性

---

---

## 目次

1. 江戸川区の概要.....	2
1) 広域的位置	
2) 人口・世帯数	
3) 都市形成の経緯	
4) まちづくりの流れ	
2. 自然環境.....	5
1) 気候	
2) 地形	
3) 水系	
4) 緑地	
5) 動植物	
3. 都市施設及び土地・建物.....	9
1) 都市施設	
2) 土地・建物	
4. 歴史文化資源.....	13
1) 社寺	
2) 有形文化財、有形民俗文化財、史跡	
3) 遺跡	
4) 歴史的な道	
5) 用水路跡	
5. 暮らしの景観.....	16
1) 伝統行事とイベント	
2) 特色ある産業	
3) 区民ボランティアの活動	
6. 江戸川区の景観特性のまとめ.....	23
7. 区民意識.....	25
1) 江戸川区の現況について	
2) 江戸川区の景観について	
3) 地域活動への参加について	
4) 永住意向について	

## 1. 江戸川区の概要

人口構成比が東京都の他区市に比べて若く、子どもの数が多い。また、人口が今なお増加している。

弥生時代より人が住みはじめ、江戸時代には新田開発が盛んであった。

40~50年前は、雨が降れば水浸しと言われたが放水路の開削、堤防の強化、下水道整備などにより安全性が向上した。

### 1) 広域的位置

江戸川区は、東京都の最東端に位置している。区域は、東西約8km、南北約13kmの広がりを持ち、面積は49.09km<sup>2</sup>である。東は千葉県浦安市と市川市、北は葛飾区と松戸市、西は墨田区と江東区に接している。南は、直に東京湾を控えている。



出典：統計江戸川 平成19年12月

### 2) 人口・世帯数の現状

平成20年1月時点、本区の人口は670,269人、世帯数は297,955世帯である。年齢別人口構成を都区部と比較すると、本区の場合、0~14歳と25~39歳の構成比が高く、住民の平均年齢が若い。東京23区の中では、世田谷区、練馬区、大田区に次いで第4位であり、現在も人口は増加している。







項目	江戸川区	23区平均	出典
人口	670,269人	-	住民基本台帳 平成20年1月
うち外国人登録数	23,083人	-	
世帯数	297,955世帯	-	
人口密度 (/ km <sup>2</sup> )	12,980人	13,489人	
平均年齢	41.1歳	43.4歳	
年少人口率	14.8%	11.2%	
生産人口	68.2%	69.4%	
老年人口	17.0%	19.5%	平成18年人口動態統計年報
合計特殊出生率	1.33人	0.98人	

### 3) 都市形成の経緯

現在の江戸川区付近は、縄文時代終わり頃まで海辺や海の一部であった。弥生時代中期になると、江戸川沿いの低地で稲作が始まり、人が生活し始めた。平安時代には村が 18 程度あり、鹿骨や一之江など現在の地名が既に使われており、江戸時代にはアシやカヤなどの生産のため、盛んに海浜地域での新田開発が行われた。以降の時代については以下の通りである。

	<p><b>(1)明治時代</b></p> <p>明治 4 (1871) 年、廃藩置県により江戸川区は初めて東京府となった。明治 22 (1889) 年の市制・町村制の実施により、江戸川区の村も大規模な統合が行われ、松江・船堀・葛西・瑞穂・一之江・平井・小松川・鹿本・篠崎・小岩の 10 ヶ村となったが、町はまだ生まれていなかった。</p> <p>明治時代は、中小河川が無数に流れる低湿地帯が区域の大半を占めていた。</p> <p>出典：2 万分 1 フランス式彩色地図 明治 13 年</p>
	<p><b>(2)大正時代-昭和時代</b></p> <p>昭和 6 (1931) 年に荒川放水路、昭和 8 (1919) 年に江戸川放水路が完成し、それぞれの村の整備が進められた。そして、昭和 38 (1963) 年には、24 年間かけて新中川放水路が完成した。</p> <p>1960 年代以降の急速な都市化により生活排水などで汚れた中小河川を清流として甦らせるため、昭和 48 (1973) 年に日本で初めての親水公園が整備された。また、昭和 57 (1982) 年に、葛西沖の埋め立て地が完成し、現在の区域がほぼ出来上がった。</p> <p>出典：東京周辺 1 万分 1 地形図集成 昭和 12 年</p>
	<p><b>(3)現在 (平成時代)</b></p> <p>平成元年には都営新宿線が開通し、現在の鉄道網が整備された。</p> <p>平成 8 (1996) 年には下水道普及率 100%を達成し、これまでの放水路の開削、堤防の強化など様々な取り組みの結果、「雨が降れば水浸し」と言われた本区の水に対する安全性が格段に向上した。</p> <p>出典：国土地理院 平成 13 年地形図</p>

#### 4) まちづくりの流れ

1960年以前	使う	生活を支えるためのまちづくり		水と交通・農業用水	S7 江戸川区設置 S22 カスリーン台風被害 S24 キティ台風被害 S27 今井～東京トリーパス開通
1960年代	開発する	発展の礎となるまちづくり		三面護岸の用水路	S35 京葉国道開通 S42 土地区画整理組合認可 S44 地下鉄東西線全線開通
1970年代	つくる	課題を解決し基盤を整えるまちづくり		古川親水公園	S45 環境をよくする運動 S48 古川親水公園完成 S48 下水道事業受託
1980年代	高める	基盤をより豊かにするまちづくり		総合レクリエーション公園	S58 総合レクリエーション公園（一部） S63 新中川橋梁整備計画 H1 平成庭園・源心庵完成 H8 葛西臨海公園（一部） H8 一之江境川親水公園完成
2000年代	活かす	豊かなまちを楽しみ、活かすまちづくり		ボランティア活動	H8 公園アライア検討会開催 H13 公園ボランティア登録制度 H15 小松川千本桜完成
2010年代	感じる	環境全体を捉えたまちづくり		景観地区指定	H16 えどがわエコセンター開設 H18 一之江境川親水公園沿線景観地区指定

## 2. 自然環境

河川・海で三方が水域に囲まれた水辺の都市である。

他の都区部に比べ、ヒートアイランド現象が緩和されている。

区の7割がゼロメートル地帯の低地であり、ほとんど高低差がない。

緑被率は16.4%で、宅地や道路、公園の緑は増加しているが、草地や農地は減少傾向にある。

また、保護樹も394本と多いが、減少している。

多様な水域を持ち、生き物に配慮した公園等整備により、様々な種類の動植物がみられる。

### 1) 気候

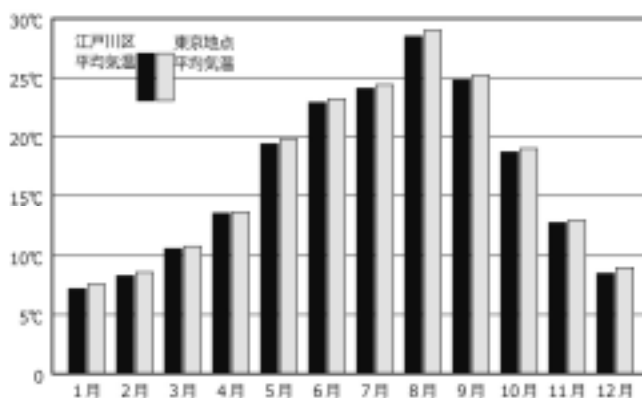
#### (1) 気温

本区の気温は、各月の東京地点(中央区)との気温差が平均0.3℃低く、特に8月は0.5℃以上の差がある。

夏季はヒートアイランド現象が懸念されるが、平成14年度東京都ヒートアイランド対策推進会議における「ヒートアイランド対策取り組み方針」によると、江戸川区は他の区部に比べ、気温30℃を超えた時間割合が低く、「東京湾からの海風や人工排熱が都心に比べて小さいことが影響していると考えられる」とある。

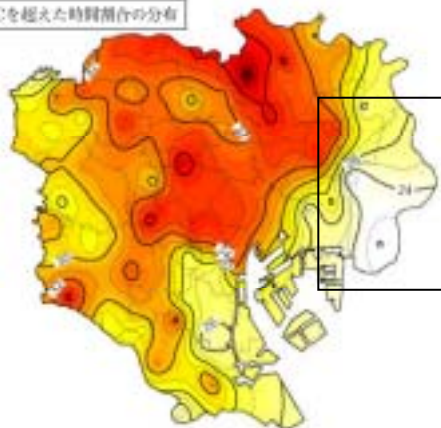
また、夜間の温度が下がりにくい地域として気温25℃を超える時間分布をみると、江戸川区は低い数値となっており、「日中は気温が上昇するが、日没後の気温が低下していることが推察される」、「台東区や墨田区で高いのは中・低層の建物が密集して熱がこもりやすいことも関係していると考えられる」とあり、江戸川区の立地や都市構造がヒートアイランド現象の緩和をもたらしていると言える。

図 月別平均気温(平成19年)

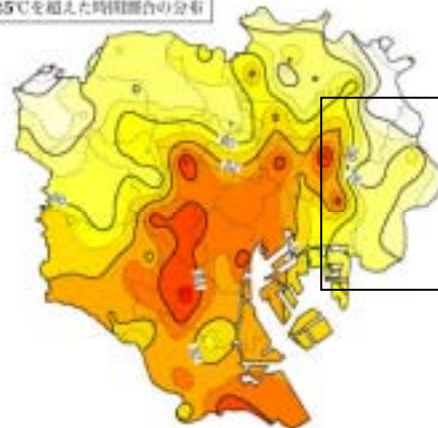


出典：気象庁気象統計情報  
江戸川区大気観測データ

気温30℃を超えた時間割合の分布



気温25℃を超えた時間割合の分布

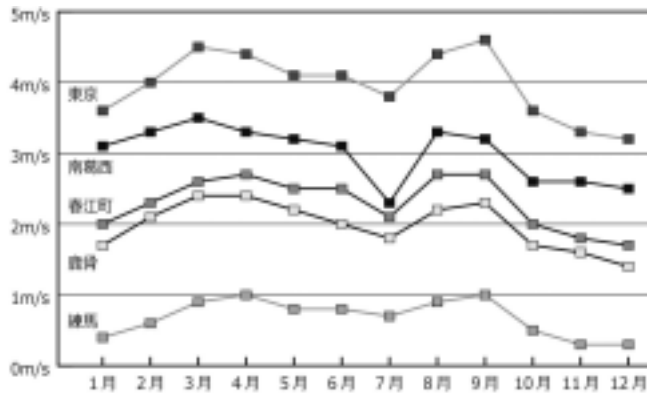


出典：平成15年3月「ヒートアイランド対策取り組み方針」東京都ヒートアイランド対策推進会議

## (2) 風向・風速

年間を通して東京地点（中央区）比べ月別平均風速が低く、また、練馬地点（練馬区）よりも高かった。区内では南であるほど風速が高い。また、風向・風速平均場（気流分布図）を見ると、風向は南から南南東方向を示している。

図 月別平均風速（平成 19 年）



出典：気象庁気象統計情報  
江戸川区大気観測データ

図 風向・風速平均場（終日）（平成 10 年 8 月）



出典：平成 13 年度ヒートアイランド対策手法調査  
検討業務報告書（環境省）

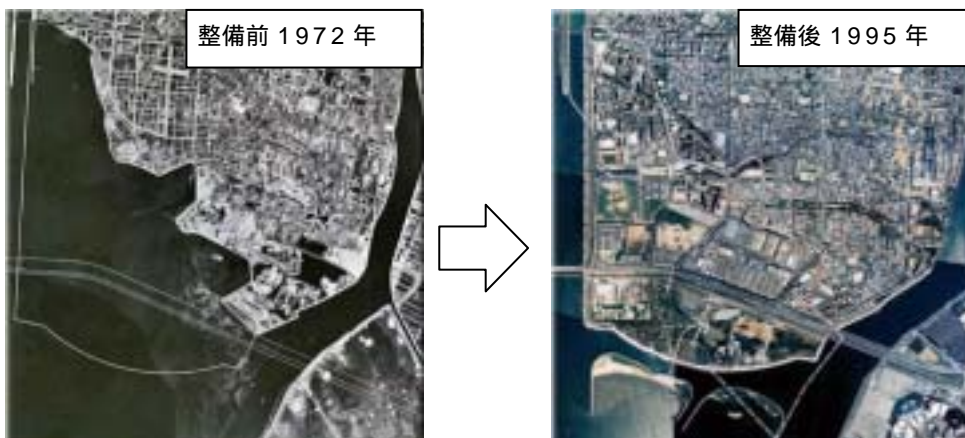
## 2) 地形

江戸川区の東は江戸川、旧江戸川、西は旧中川および荒川、中川、南は東京湾となっており、三方を河川と海に囲まれている。また、関東山地から南下する河川による沖積作用により、関東中央南部の平野をつくり出すと共に、江戸川の河口に広い三角州をつくり出し、その上に江戸川区の全域がある。区面積の 7 割が満潮位以下のゼロメートル地帯と呼ばれる低地となっている。

## 3) 水系

### (1) 水際線

江戸時代、江戸川南部でのアシヤカヤの生産のため海面開発が進んだ。近年では、葛西沖の埋め立てが行われ、昭和 57(1982)年に清新町、昭和 58(1983)年には臨海町が生まれた。



出典：江戸川区環境促進事業団資料

## (2) 河川

東西を国の管理する江戸川・荒川の大河川が流れており、また、東京都の管理する旧江戸川、新中川、中川、区の管理する旧中川、新川の合計7河川が流れている。

江戸川	本区の東端、千葉県との境を流れており、本区にとって最もゆかりの深い川であり、区の全域は江戸川づくり出した三角州上にある。
荒川	昭和5年、治水のために放水路ができ現在の流れとなっている。
旧江戸川	自然に作られた流れで、江戸川放水路掘削までは江戸川の本流であった。
新中川	中川と旧江戸川を直線的に結ぶ人工の川で、昭和38(1963)年に完成した。
中川	中川は、隅田川と利根川の間を流れることから名付けられたものである。
旧中川	もともと人工の河川で、排水路として徳川吉宗の命で開削したものである。屈曲が多いが、自然蛇行ではなく高潮を防ぐために設計されたものである。
新川	徳川家康の命により行徳の塩を運ぶために掘られた運河で、客船も往来するようになり大変賑わい、重要な船路であった。

## 4) 緑地

### (1) 緑被地

区全体面積における緑の総量を示す緑被率は、16.4%であり、平成13年度の15.4%より1.0%向上した。公園や宅地内の緑被率は向上しているが、草地や農地は減少している。

表 緑被およびみどり率の経年変化

みどりの対象項目	平成13年		平成18年		変化	
	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
樹林地	16.32	0.33	34.82	0.71	18.50	0.38
草地	165.79	3.38	132.65	2.70	-33.14	-0.68
農地	90.25	1.84	73.52	1.50	-16.73	-0.34
宅地内の樹木	164.36	3.35	183.92	3.75	19.56	0.40
宅地内の草地	19.48	0.40	28.22	0.57	8.74	0.17
屋上緑化	5.84	0.12	6.64	0.14	0.80	0.02
道路の緑	44.71	0.91	79.46	1.62	34.75	0.71
公園内の樹木	91.23	1.86	99.99	2.04	8.76	0.18
公園内の草地	158.16	3.22	163.92	3.34	5.76	0.12
緑被面積、緑被率	756.14	15.40	803.14	16.36	47.00	0.96
公園内の裸地	52.53	1.07	58.31	1.19	5.78	0.12
公園で緑及び裸地以外	55.98	1.14	56.92	1.16	0.94	0.02
学校のグラウンド等	52.22	1.06	50.15	1.02	-2.07	-0.04
河川等の水面	557.81	11.36	531.41	10.83	-26.40	-0.53
橋の下の緑及び水面	23.16	0.47	19.35	0.39	-3.81	-0.08
緑の面積、みどり率	1497.84	30.51	1519.28	30.95	21.44	0.44

出典：江戸川区の土地利用 平成19年3月



## (2)樹木

### 樹木数

江戸川区では、「ゆたかな心 地にみどり」を合い言葉に緑化運動を長年に渡り進めてきた。その成果として、平成 18 (2006) 年 4 月時点、区内の樹木総本数は約 554 万本で、区民一人あたりで見ると、およそ 8.4 本となる。

表 樹木数の推移

	1972 年	1983 年	1993 年	2001 年	2005 年
公共樹木 (本)	103,184	958,304	2,217,782	2,781,409	2,925,624
民間樹木 (本)	1,090,121	1,315,161	1,768,630	2,256,692	2,614,012

出典：環境促進事業団資料

### 街路樹

街路樹は、平成 20 年 4 月時点で、高木だけで 34,598 本あり、23 区内一を誇る。街路樹に植えられている高木で最も多い樹種は、江戸川区の木になっているクスノキで 4,738 本、全体の 13.7%を占めている。

### 保護樹

大木（高さ 1.5mのところ、幹径が 0.5m以上あり樹形、樹勢が良好な価値ある樹木）を保護樹として指定し、樹木医による治療を受けながら、地域のシンボルとして、区民共通の財産として後世に引き継いでいくために保護している。平成 20 年 4 月時点、保護樹は 394 本あり、そのうち区天然記念物に 7 本が指定されている。

## 5) 動植物

江戸川区には、淡水（塩分を含まない真水）、海水（塩分が多く含まれた水）、汽水（淡水と海水が混じり合った水）の 3 つの異なる水域があるため、多様な水生生物や野鳥などが棲息している。

希少動植物では、平成 18 年度の水辺環境調査において絶滅危惧種のクロツラヘラサギ、トビハゼが確認されている。また、平成 19 年には東京都のレッドデータブックで「絶滅したと判断される種」に分類されている水草「クロモ」が新川で確認されている。



### 3 . 都市施設及び土地・建物

公園や道路整備など、都市施設の整備が充実している。  
水門・閘門や橋梁など、水辺に関する施設が多く点在している。  
宅地の約6割が住宅用地となっており、区域の大半が住宅地である。  
江戸川区全体の建物の9.5割以上が3階建て以下の低層建物となっている。  
3階建てや、利用建ぺい率の増加、専用独立住宅の平均敷地面積の減少などにより、ゆとりある空間が減少している。

#### 1) 都市施設

##### (1)公園・児童遊園 等

昭和45(1970)年には、98公園、総面積約38haだったが、平成20(2008)年には、親水公園5園を含む432園、総面積7,556,917.52㎡となり、公園面積は23区内一を誇る。

区民一人あたりの公園面積は、約5.12㎡となっている。

##### (2)水辺施設

###### (a)河川敷

河川敷には大きく江戸川河川敷、荒川河川敷、新中川河川敷がある。

江戸川河川敷には、野球場やサッカー場をはじめ、菖蒲園やポニーランドなど、広場を活かして様々な利用されている。

荒川河川敷には、野球場が整備され、地域の憩いの場となっており、荒川と中川の中土手には、ピオトープが整備されている。

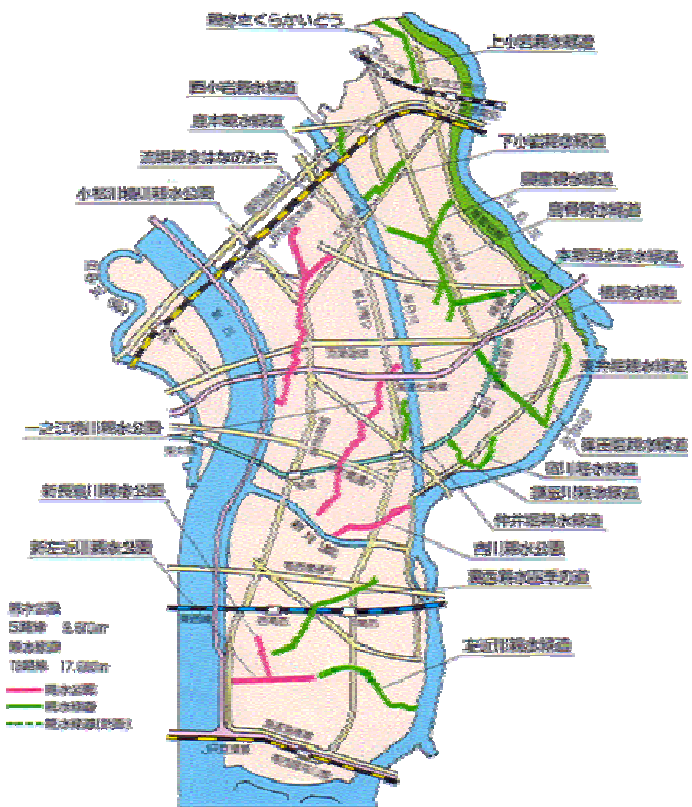
###### (b)親水施設

下水道の整備が進み、従来の治水や利水機能の役割を終えたこれらの水路の将来計画として、総合的な整備の必要性をうたった「江戸川区内河川整備計画(親水計画)」(昭和47年)に基づき、親水公園が5路線、親水緑道が18路線、親水河川が2路線あり、計画の9割以上の整備が進んでいる。

###### (c)閘門・水門

荒川のロックゲート、江戸川水閘門(篠崎水門)、今井水門の他、新川と旧中川にも水門が設けられている。

図 区内の親水公園・親水緑道



### (3)道路

東京都心と千葉方面を結ぶ道路として、京葉道路、蔵前橋通り、新大橋通り、葛西橋通りがあり、南北方向には環状七号線、船堀街道などがある。自動車専用道路として、首都高速道路7号小松川線、湾岸線、中央環状線がある。

表 江戸川区の主な道路網

分類	道路名称
一般国道	国道14号(千葉街道・京葉道路) 国道357号(東京湾岸道路)
都道	都道10号東京浦安線(葛西橋通り) 都道50号東京市川線(新大橋通り) 都道308号千住小松川葛西沖線(船堀街道・平和橋通り) 都道315号御徒町小岩線(蔵前橋通り) 都道318号環状七号線 都市計画幹線街路第16号線(永代通り)
自動車専用道路	首都高速道路7号小松川線 首都高速道路湾岸線 首都高速道路中央環状線

### (4)鉄道

区内の鉄道網は、北から京成本線、JR総武線、都営新宿線、東京メトロ東西線、JR京葉線の5路線が整備されており、いずれも東京都心と千葉方面を東西に結んでいる。

戦前より開通していたJR総武線と京成本線と、近年開通した都営新宿線や区内に駅が新設されたJR京葉線のように、路線ごとで開通年に大きな差がある。

表 江戸川区の鉄道網

鉄道名	駅名	開通、開業年
京成本線	京成小岩駅、江戸川駅	大正元(1912)年開通
JR総武線	平井駅、小岩駅	明治27(1894)年本所・佐倉間開通 明治32(1899)年区内に2駅開業
都営新宿線	東大島駅、船堀駅、一之江駅、瑞江駅、篠崎駅	平成元(1989)年本八幡まで開通
東京メトロ東西線	西葛西駅、葛西駅	昭和44(1969)年葛西駅開業 昭和54(1979)年西葛西駅開業
JR京葉線	葛西臨海公園駅	昭和63(1988)年葛西臨海公園駅開設

出典：のびゆく江戸川区 平成18年度版

### (5)橋梁

平成19年度時点で国橋が11橋、都橋が51橋、区橋が57橋の合計119橋がある。

新中川には、門をイメージした重厚感あふれ、風格のある明和橋や、大きな杉の木がモチーフの吊り橋である大杉橋など様々な形状の橋が架かっている。

## 2) 土地・建物

### (1) 土地利用現況

区全体面積(4908.6ha)のうち、宅地(建物の建っている敷地)は47.6%で、住宅用地は全体の28.9%を占めており1番大きい。住宅用地の中では、独立住宅が58.0%(824.5ha)で、小岩地区、東部地区、鹿骨地区で多くみられる。一方、集合住宅は42.0%(596.5ha)で平井地区、葛西地区、臨海地区で多く見られる。

商業用地は、区全域で6.0%(294.8ha)であり、地区別では葛西地区、中央地区の北部及び鹿骨地区で商業地率が高くなっている。

工業用地は、区全域で6.5%(317.2ha)であり、地区別では葛西地区、中央地区南部及び東部地区などに多く分布している。

農地は、区全域で1.5%(75.6ha)であり、地域的に見ると、鹿骨地区、東部地区、中央南部地区及び中央北部地区に比較的多く見られる。

区全体の推移としては、住宅用地、公園・運動場用地、道路などが増加し、工業用地、未利用地、農地が減少する傾向が見られ、宅地化が進んでいる。

### (2) 建物現況

#### (a) 建物階数

江戸川区全体の建物の内、62.2%が2階建ての建物となっており、また、3階建てまでの建物は全体の95.3%と、区内の大半が低層建物で構成されている。大規模団地のある平井南部地区や臨海地区以外の地区において、全体的に3階建ての建物が増えている。

全建物の建築面積に対する4階以上の建物の建築面積の割合(中高層化率)は、18.9%であり、平成13年度より1.3%高くなった。

#### (b) 利用建ぺい率

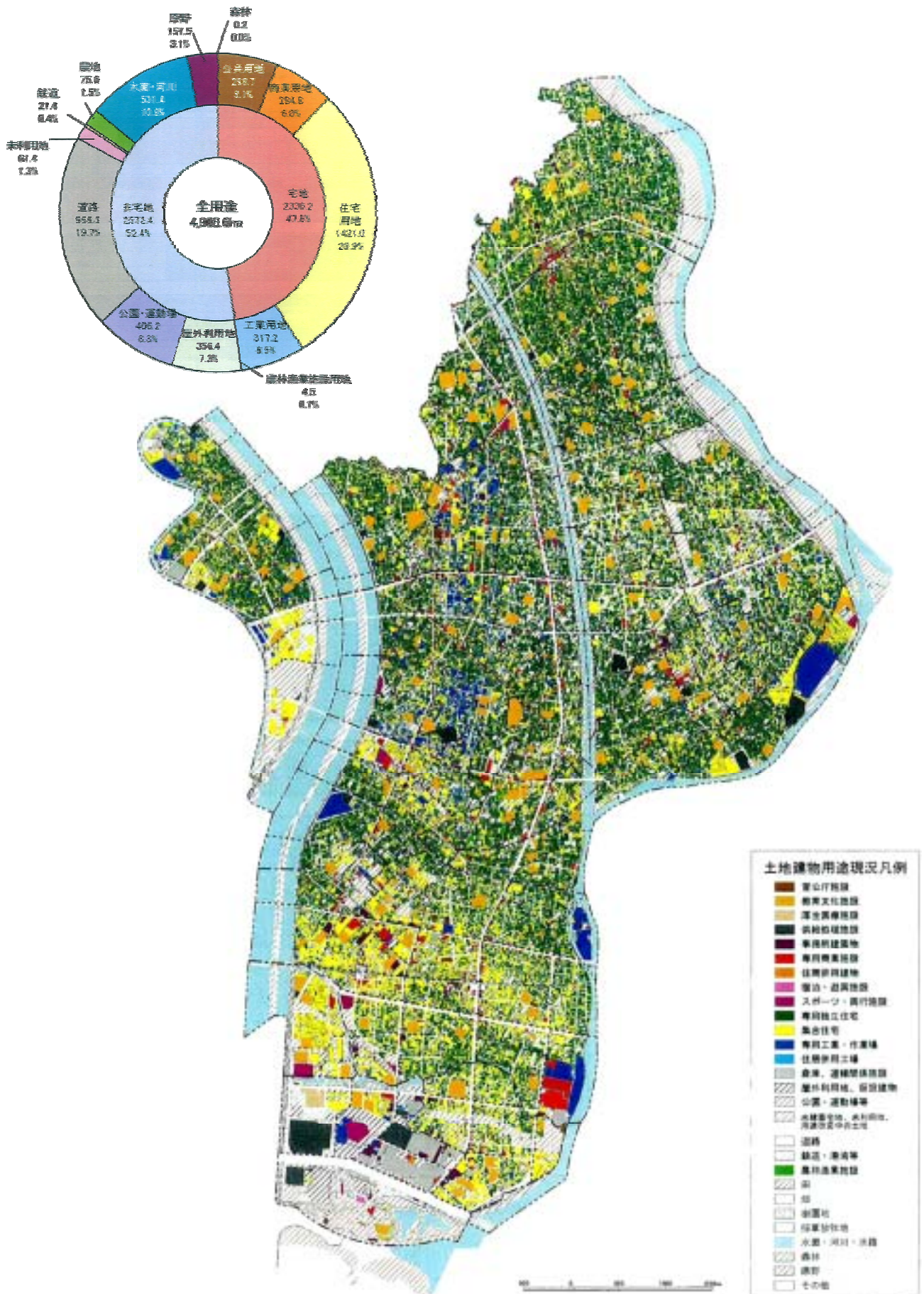
江戸川区全体の宅地面積に対する建築面積の割合(利用建ぺい率)は52.6%であり、地区別にみると、小岩地区の56.7%、平井北部地区の56.6%が高く、臨海地区の38.7%、平井南部地区の43.9%、葛西地区の50.7%が低かった。江戸川区全体では平成3年度より9.6%増加し、全体的に敷地のゆとりが少なくなっている。

## 3) 敷地現況

江戸川区全域における平均敷地面積は186.1㎡で、用途住宅用地の平均敷地面積は145.2㎡で、専用独立住宅は103.4㎡、集合住宅は329.1㎡であった。

平成3年から5年毎の平均敷地面積の推移を見ると、区全域において平均敷地面積は増加傾向にあるが、専用独立住宅は平成3年の112.1㎡より8.7㎡減少している。

図 土地利用面積比率と土地利用現況図



出典：江戸川区の土地利用 平成 19 年 3 月

## 4 . 歴史文化資源

社寺や遺跡など、地域資源が区内全域に点在している。  
かつての用水路が、親水公園、緑道などになり、土地の歴史を伝える地域資源として、街の骨格を形成している。

### 1 ) 社寺

樹齢 600 年、大正 15 年に東京都の天然記念物の指定を受けている影向の松で有名な善養寺や、2 年に 1 度開催される幟まつりが有名な浅間神社、古くから「平井の聖天さま」として親しまれてきた平井聖天（燈明寺）をはじめ、社寺が区内各地域に分布しており、地域の歴史や文化を伝える重要な拠点となっている。



浅間神社



平井聖天

### 2 ) 有形文化財、有形民俗文化財、史跡、天然記念物

区内には、かつて小岩市川の渡し場にあった常燈明などの有形文化財が計 124 件、区内各所に多く見られる富士塚などの有形民俗文化財が計 35 件ある。そして、江戸時代のはじめに現在の春江町で新田を開いた田島家の屋敷だった一之江名主屋敷など計 20 件の史跡と、東京都指定文化財でもある善養寺影向の松をはじめとする天然記念物が計 7 件ある。



影向の松（善養寺）



宇田川家長屋門



一之江名主屋敷

### 3 ) 遺跡

区内では、区内最大の上小岩遺跡（北小岩 6 丁目）、勢増山遺跡（上篠崎町 4 丁目）、椿遺跡（春江町 2 丁目）、香取神社遺跡（中央 4 丁目）の 4 箇所が発見されている。古墳と推定される篠崎浅間神社・鹿見塚（鹿骨）があるが、確かなことがわかっていない。

中世の貝塚は、五分一貝塚（松島 1 丁目）、松江橋貝塚（東小松川 3 丁目）、道ヶ島貝塚（松島 3 丁目）、一之江天神山貝塚（一之江 2 丁目）、本一色貝塚（本一色町）などが発見されており、大和時代から鎌倉時代のものが多い。水辺で低湿地が多いために、農作物が水害に遭い、貝をとって生活をしてきたことがわかる。

図 社寺分布図

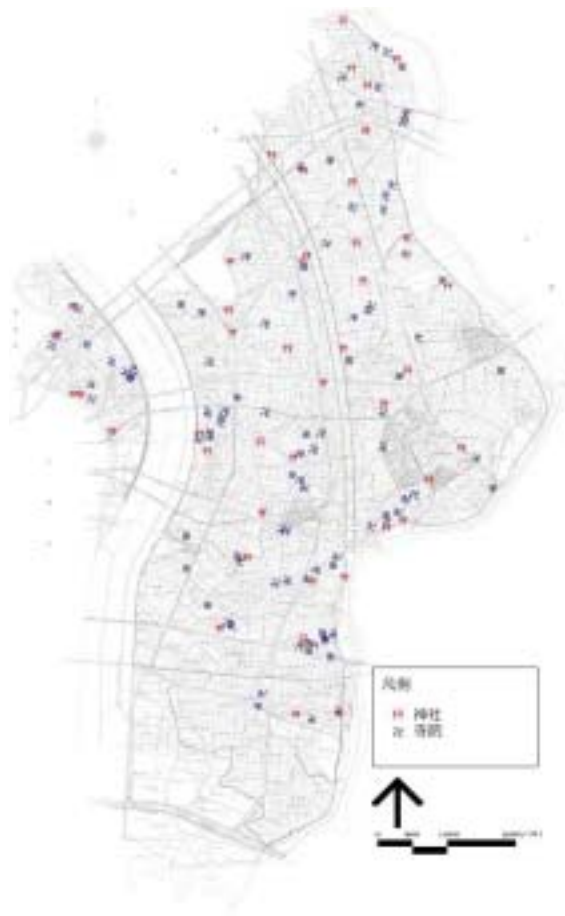
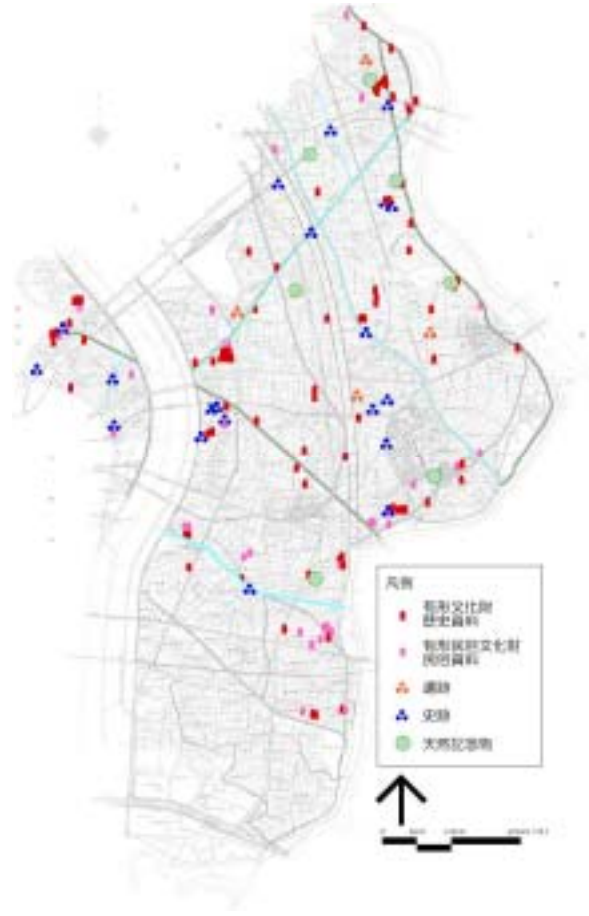


図 江戸川区有形文化財分布図



出典：江戸川区の史跡の名所

#### 4) 歴史的な道

江戸時代における主要道路は、逆井の渡から小岩に通ずる元佐倉道及び新宿から小岩を経て市川に向かう佐倉街道、行徳道、岩槻道の4道があった。江戸時代に区内にかけられていた橋は24基あったが、江戸川や中川など大きな川には、政策上から橋をかけず、各所に渡し船がおかれていた。かつて小岩市川の関所は、房総方面から江戸に入る街道に設けられた重要な関所で、厳重な取り調べが行われた。

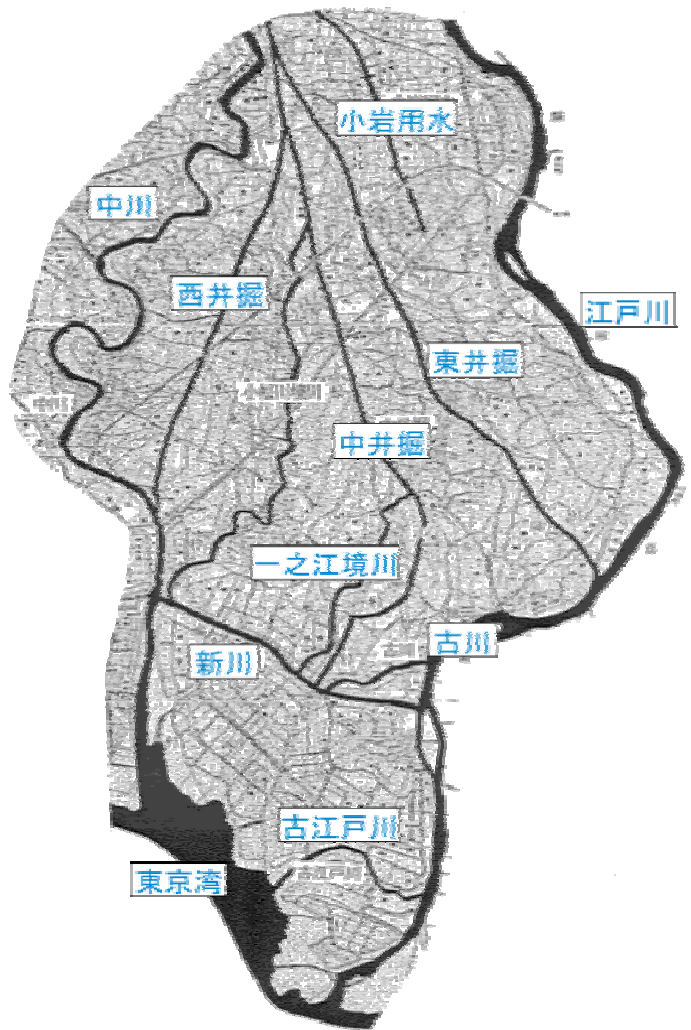
佐倉街道は、水戸街道から葛飾の新宿で分かれる脇街道で、小岩村にはいる重要な道であった。元佐倉道は、小松川から小岩市川の関所に向かう一直線の道で、現在の千葉街道である。行徳道は、小松川から今井に達する古い道で、成田参りの人々が往来したり、行徳でつくった塩を江戸に運ぶために利用された。その後、大正6(1917)年、錦糸堀(現在の錦糸町)と小松川間に城東電車が開通し、大正14(1926)年には東荒川・今井間まで延長した。昭和27(1952)年には廃止され、東京発のトロリーバスが運行された。岩槻道は、篠崎・小岩を通過して埼玉県の岩槻に通じる道で、区内を縦に走る重要な道であった。

## 5) 用水路跡

江戸川区では、荒川放水路や新中川放水路の開削、臨海地区の埋立て等により、街道や市街地などの歴史的な文脈が分断されてしまった。

また、かつて区内には 420km にも及ぶ水路や中小河川があったが、都市化の発展とともに環境悪化が進み、埋立や暗渠化が進んだ。

しかし、江戸川区ではこれらの水路や中小河川を親水公園や親水緑道などとして積極的に活用を進め、土地の歴史を残す貴重な資源として、街の骨格を形成している。



出典：東京府南葛飾郡全図 1900年



## 5.暮らしの景観

区内各地に伝統的行事が残っている。  
 季節毎にイベント・催しが開催されており、特に花の名所が多いため、花に関するイベントや、水辺で開催されるイベントが多い。  
 町会・自治会活動やアダプト活動、環境保全活動など、区民ボランティアの活動が活発で、内容も多岐にわたる。  
 規模は小さいが、農業や金魚養殖など、貴重な江戸川区らしい産業が残っている。

### 1) 伝統行事とイベント

#### (1) 主な伝統行事

浅間神社ののぼり祭や雷の大般若、葛西大師まいりなど、36件が江戸川区無形文化財・風俗習慣に指定・登録されている。



獅子もみ行事（広報 HP より）



雷の大般若（保存会 HP より）



葛西大師まいり（広報 HP より）

表 江戸川区無形文化財・風俗習慣一覧

無形民俗文化財・風俗習慣	時期	場 所
浅間神社ののぼり祭り	7月	浅間神社（上篠崎 1-22-31）
芽の輪くぐり	6月	北野神社（北小岩 3-23-3）
雷の大般若	2月	東葛西 4・7 丁目(雷地区)
念仏講		安養寺(平井 6 -53- 1)
鹿骨大辻の念仏講		鹿骨 5 丁目大辻地区
松本の念仏講(和讃講)		光蔵寺(松本 2-31-11)
下篠崎の念仏講		下篠崎会館
鹿骨南前講中の題目講		旧鹿骨村南（鹿骨町、鹿骨 1 丁目）
鹿骨南後講中の題目講		旧鹿骨村南（鹿骨町、鹿骨 1 丁目）
笹だんご行事	7月	八雲神社(江戸川 3-24-9)
葛西大師まいり(長島・桑川地区)	5月	東葛西 4 丁目
葛西大師まいり(船堀・宇喜田・小島地区)	5月	西葛西 1 丁目
葛西大師まいり(仲町地区)	5月	東葛西 8 丁目
葛西大師まいり(雷地区)	5月	東葛西 9 丁目
椿の庚申講		椿地区(春江 2・3 丁目)
新堀の念仏講		新堀地 1・2 丁目
桑川の庚申講		東葛西 1 丁目
篠崎本郷の獅子もみ行事	7月	篠崎本郷地区（篠崎 1・2 丁目）
西之庭の念仏講(西之庭講中)		西之庭地区(鹿骨 5 丁目)

谷河内の題目講(十三日講)		谷河内地区(谷河内1丁目)
半富(半七)稻荷講		五分一地区(松島1丁目)
椿の題目講(椿八日講)		椿地区(春江町2・3丁目)
保町稻荷講		五分一地区(松島1丁目)
下鎌田宿の念仏講(下鎌田宿地蔵講)		東瑞江2丁目
下鎌田宮下の念仏講		東瑞江2丁目
鹿骨南の念仏講(十二日)		鹿骨1丁目
大杉の念仏講		大杉2丁目
宇喜田十軒の地蔵講		宇木田町
鹿骨東の念仏講(東念仏講中)		鹿骨1・4・5丁目
葛西大師まいり(葛西大師講)	5月	旧葛西新田地区(中葛西・南葛西)
小岩田三谷の念仏講		北小岩8丁目
鹿島神社のマガギ建て行事	9月	鹿島神社(鹿骨4-9-17)
仲町大六天の念仏講		東葛西8丁目
東小松川渡し場の水神講		東小松川4-28-15
東小松川大江川の水神講		東小松川3-9-9
東小松川入の庭の水神講		東小松川3-22-7

出典：江戸川区の史跡と名所 平成20年1月

## (2) イベント・催し

江戸川区ならではの風物詩をはじめ、緑のフェスティバルや小岩菖蒲園まつり、花火大会など年間を通じて様々なイベント・催し物がある。特に桜やバラ、菖蒲など、区内には花の名所が多く、花に関するイベントが多く開催されている。



緑のフェスティバル



小岩菖蒲園まつり(事業団より)



江戸川花火大会

表 区内の主なイベント

イベント・催しの名称	時期	開催場所
江戸川さくらまつり	3月下旬～4月上旬	区内11箇所
小松川千本桜まつり	3月下旬	小松川千本桜
花と緑の即売会	3月下旬	江戸川区役所前庭
緑のフェスティバル	4月29日	区内6箇所
花の祭典・江戸川区特産農産物品評展示会	5月上旬	鹿骨スポーツ広場
スプリングフェア	5月	総合レクリエーション公園
江戸川区特産バラ品評展示会	5月	総合文化センター
花壇コンクール	5月下旬～6月中旬	小岩フラワーロード 他
小岩菖蒲園まつり	6月上旬～中旬	小岩菖蒲園
新中川フェスタ	6月中旬	新中川

小岩あさがお市	7月	JR 小岩駅南口商店街
金魚まつり	7月下旬	行船行園
古川まつり	7月下旬	古川親水公園
江戸川区花火大会	8月上旬	江戸川河川敷
江戸川区民まつり	10月上旬	篠崎公園
オータムフェア	10月	総合レクリエーション公園
影向菊花大会	10～11月	善養寺
花と緑の即売会	11月	江戸川区役所前庭
正月用花の展示即売会	12月	区内の駅前など9箇所

出典：水と緑の江戸川ガイドマップ 平成20年6月

### (3)無形民俗文化財（民俗芸能）

江戸川区無形民俗文化財の民俗芸能に4件が指定・登録されている。なお、\*印のあるものは東京都指定文化財にも指定されている。

表 江戸川区無形文化財・民芸芸能一覧

名 称	保持者 他
葛西囃子(旧囃子)	篠崎1丁目
葛西囃子 (*)	東都葛西睦会
葛西のおしゃらく (*)	おしゃらく保存会
葛西の里神楽 (*)	東都葛西神楽保存会

出典：江戸川区の史跡と名所 平成20年1月

## 2) 特色ある産業

### (1) 農業

農業センサスによると、平成 12 年経営耕地面積が 119.2ha、農家戸数が 251 件となっており、ともに減少傾向にある。

主に小松菜と花卉が生産され、小松菜の収穫量は、日本一、二を誇る。花卉はアサガオやポインセチアなどの鉢ものと花壇用苗がほとんどである。

区内で唯一残っている水田に「みとらずの稲田」があり、しめ縄がつくられている。

鹿骨地区には東京都農林総合研究センター江戸川分場がある。



みとらずの稲田



花卉栽培（写真：事業団）



図 街区別農地率現況図

出典：江戸川区の土地利用 平成 19 年 3 月

### 江戸川区花卉園芸組合の紹介

江戸川区では、江戸時代に大杉あたりで菊栽培がはじまり、明治から大正時代にかけて徐々に周辺にも広がっていった。現在でも鹿骨・大杉を中心として花卉園芸栽培が盛んで、夏の風物詩として有名な入谷の朝顔市の約 7 割が江戸川区産となっている。

昭和 51 年に 2 月に発足した花卉園芸組合は、江戸川区との連携事業を積極的に進めてきた最も古い組合のひとつで、30 年以上続いている小岩フラワーロードの花壇コンクールも、花卉園芸組合が造園デザインの向上を図ることを目的に花壇を設置し、コンクールを実施することを提案したのがきっかけとなっている。

現在、組合員数は 52 名であり、花の祭典、小岩あさがお市など、様々なイベントを開催、協力している。



花の祭典（写真：事業団）



小岩フラワーロードの花壇

## (2)金魚養殖

戦前の最盛期に 23 軒あった養殖業者も、現在は 2 軒になった。

江戸川区の養殖業者 2 軒で、東京都淡水魚養殖漁業協同組合（昭和 24 年 10 月設立）の生産量・販売量ともその 3 割近くを占めている。



養殖場の様子

## (3)屋形船

江戸屋形船事業組合に 17 件が登録しており、江戸川、旧江戸川沿いに分布している。

江戸川に伝わる伝統漁法「投網」を残すため船宿の有志による江戸網保存会が発足し、5月に江戸川今井橋前にて「お江戸投網まつり」を実施している。



お江戸投網まつり（保存会 HP より）

## (4)伝統工芸

江戸川区無形文化財・伝統技術に指定・登録されているものは、江戸被切子やつりしのぶなど、19 件ある。

えどがわ伝統工芸産学公プロジェクトなど新たなブランド化の取り組みが始まっている。



図 江戸川区の無形文化財  
出典：江戸川区の史跡と名所 平成 20 年 1 月

### 3) 区民ボランティアの活動

#### (1) 町会・自治会活動

これまで町会・自治会を中心とする組織と区が強い信頼関係に支えられながら連携をとり、環境をよくする地区協議会、親水公園を愛する会や実のなる木を育てる会など、江戸川区らしいパートナーシップを築いてきた。現在 283 の町会・自治会があり、地域ごとに町会・自治会が集まって構成する連合町会が 10 団体ある。



環境をよくする地区協議会



親水公園を愛する会



地域まつり

表 町会・自治会登録状況

地区	町会・自治階数	地区	町会・自治階数
小松川地区	61 団体	小岩地区	37 団体
中央地区	32 団体	東部地区	36 団体
葛西地区	100 団体	鹿骨地区	17 団体

出典：江戸川区生活振興部地域振興課ホームページ 平成 20 年 9 月

#### (2) 水と緑に関するアダプト活動

区内では、様々な分野で区民がボランティア活動を行っているが、水と緑に関するアダプト活動として、174 団体、104 個人、計 5400 人が登録し、清掃や花壇づくり、プレーパーク運営など多岐に渡る活動を行っている。



公園ボランティア（事業団より）



まちかどボランティア（事業団より）



緑のボランティア（事業団より）

表 水と緑に関するボランティア登録状況

項目	団体	個人	計
公園ボランティア	94 団体	64 個人	2,439 人
まちかどボランティア	21 団体	6 個人	1,008 人
緑のボランティア	34 団体	26 個人	1,315 人
水辺のボランティア	25 団体	8 個人	638 人
計	174 団体	104 個人	5,400 人

出典：水と緑のガイドマップ 平成 20 年 5 月

## NPO 法人えどがわエコセンターの紹介

特定非営利活動法人えどがわエコセンターは、江戸川区において区民、事業者、行政が連携・協働のもと、「環境にやさしいまち江戸川区」を実現することを目指し、平成 15 年 11 月に設立された。

平成 20 年 9 月時点で、会員数は計 328 である。平成 19 年度は、小学校環境学習支援や子ども体験教室、もったいない運動えどがわなどの事業を企画・運営し、子どもたちをはじめ区民に環境に関する様々なプログラムを提供している。

表 えどがわエコセンターの会員数

会員	会員数
正会員	130
賛助会員	198
個人会員	241
団体会員	87
計	328

出典：エコセンター事務局資料



グリーンプラン推進校（小松菜を育てよう）



子ども体験教室



打ち水大作戦

表 平成 19 年度事業概要

事業名	内容	備考
環境教育・環境学習の推進事業	小学校環境学習支援事業（グリーンプラン推進校）、子ども体験教室 等	平成 19 年度 7 校 平成 20 年度 11 校
人材育成事業	環境学習リーダー養成講座 等	修了者 10 名 等
団体に対する活動支援事業	生ごみリサイクル講習会 等	修了者 2 期計：87 名 等
区民・事業者・行政の交流・連携推進事業	もったいない運動えどがわ（打ち水大作戦 他）等	全事業合計 990 グループ、29,000 人参加
情報の提供及び支援事業	情報紙「エコちゃんねる」発行	各 5,000 部発行
その他の事業	東なぎさクリーン作戦 等	

出典：エコセンター事務局資料

## 6 . 江戸川区の景観特性のまとめ

### 1 ) 水と緑を基盤としたのびやかな景観



海と河川で三方を水域に囲まれ、高低差のほとんどない地形的特性や、公園や河川敷など空が開けたオープンスペース、比較的建物の密度が低い低層住宅等の街並みなど、水と緑を基盤とした江戸川区の都市構造がのびやかで開放感のある景観を形成している。

また、これらの都市構造がヒートアイランド現象の緩和など、住みよい環境をつくりだしている。

### 2 ) 新旧の建物が混在する住宅地の景観



かつては水田地帯だった江戸川区も、現在はほぼ全域が住宅地となっている。水害から市街地を守るための放水路の開削、堤防の整備、下水道整備をはじめ、土地区画整理事業など、よりよいまちづくりのための取り組みを積極的に行ってきた結果、概ね良好な住宅地の景観が形成されている。

新しい建物が多いが、所々に大きな敷地面積をもつ屋敷なども見られ、新旧の建物が混在する住宅地の景観が形成されている。

### 3 ) 歴史的・文化的資源が点在する景観



区内各所に社寺や伝統行事、大木など歴史的資源が点在している。なかでも、鹿骨など農業が点在する地域や、土地の歴史を伝える親水公園や親水緑道など、まとまりある景観を形成している地域もある。

また、水門や橋梁といった土木施設の景観など、水辺の都市ならではの文化的資源が多いのも特徴である。



#### 4) 四季折々の変化のある景観



サクラやショウブ、バラなどの花の名所が多いことや、公園面積や街路樹本数が23区で最も多いことが特徴であり、また、四季を楽しむためのイベントも年間を通じて多く開催されている。さらに、多様な水域による生き物の多様性など、区民が身近に緑や自然とふれあう場所と機会が数多くあるのが特徴である。

#### 5) 活力・にぎわいのある暮らしの景観



江戸川区では、人口が増加し、若い世代が多いのが特徴である。また、町会・自治会活動が充実している他、多様なボランティア活動が活発であり、区民の活力がある。

子どもたちが公園やまちかどで元気に遊ぶ声、健康の道などでウォーキングを楽しむ夫婦など、区民の生き生きとした姿や、松江に広がる活気に満ちた工業の街並みなど、日々の暮らしの中の活力ある景観も特徴となっている。

## 7. 区民意識

平成 20 年 5 月～ 6 月に実施した、第 28 回 江戸川区民世論調査をもとにまとめた。

### 1) 江戸川区の現況について

#### (1) 総合的満足度

区の現況を総合的にみた場合、「満足」と「やや満足」を合わせた満足度の合計は、全体の 4 割を占めている。一方「やや不満」と「不満」を合わせた不満の合計は 1 割程度である。

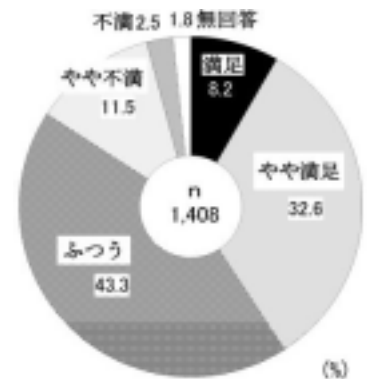


図 江戸川区民の現状への総合的満足度

#### (2) 項目別満足度

区の現況を項目別にみた場合、「エ・公園・水辺の整備」、「オ・緑化の推進」は、「満足」と「やや満足」の割合が高く、5 割を超えている。そして、「やや不満」と「不満」については、共に 1 割以下と低いことから区民の満足度が高いと言える。

「カ・街の景観」については、「満足」と「やや満足」が 28.0%、「やや不満」と「不満」19.7%と満足が上回っているものの、「ふつう」が半数であった。



図 江戸川区民の現状への項目別満足度

## 2) 江戸川区の景観について

### (1) 魅力的な景観

日常生活の中で区内の魅力的な景観として、「海や川などの水辺の景観」と「公園や農地などの緑の景観」は、それぞれが全体の3割以上を占め、約7割が水と緑に関する景観である。

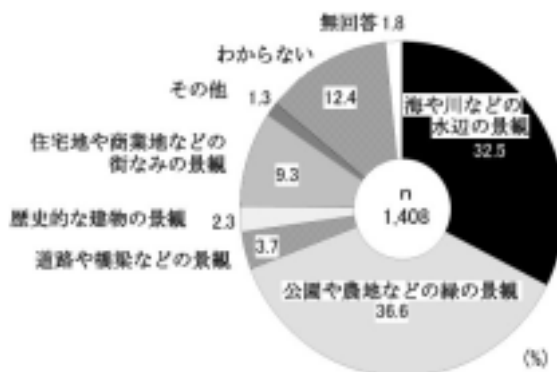


図 日常生活の中で魅力的だと思う景観

### (2) 景観を損ねている要因

区内の景観を最も阻害している要因として、「電柱や鉄塔、電線」が1番多く挙げられ、全体の2割以上を占めている。また、「特になし」、「わからない」、無回答の合計が全体の約3割を占めている。

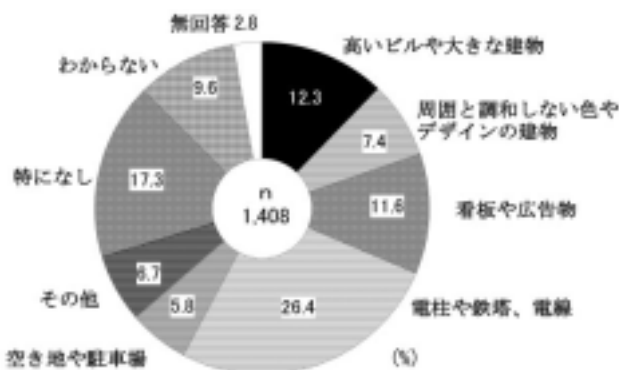


図 江戸川区の景観を最も損ねているもの

### (3) 景観づくりにおけるルールの必要性

良好な景観づくりのために、建物の高さや色などについて具体的なルールをつくり、誘導していくことが「必要である」、「どちらかといえば必要である」と回答した人が半数以上いる。また、家やビルを建てる時の具体的なルールとして、「建物の高さや大きさを制限する」、「道路と建物の間に空間をつくる」及び「敷地内や建物の屋上を緑化する」については、それぞれ全回答者の2割以上が受け入れられると答えている。



図 良好な景観づくりをするためのルールづくり

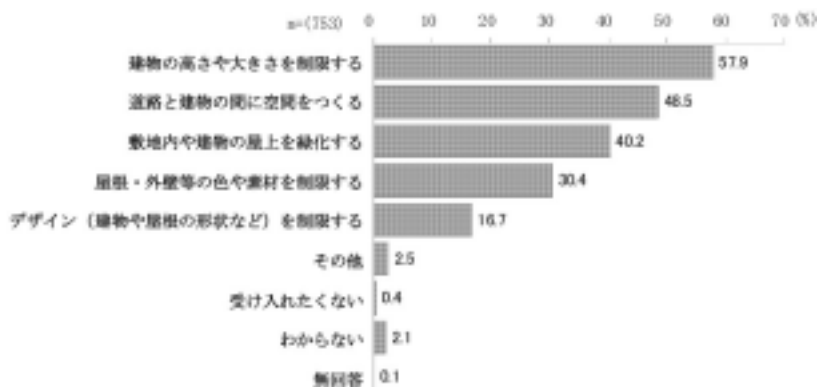


図 受け入れられる具体的なルール  
（「必要である」、「どちらかといえば必要である」選択者のみ）

### 3) 地域活動への参加について

区では、「保育ママ」、「すくすくスクール」、「安全・安心パトロール」など様々な事業や取り組みが町会・自治会やボランティアなどにより展開されている。

これらの地域活動に「現在参加している」及び「過去に参加したことがある」との回答は、全体の約2割程度である。

地域活動への参加意向について、「ぜひ参加したい」、「きっかけや条件が整えば参加したい」及び、「(仕事や健康上の理由などにより)参加したいが、できない」との回答は、全体の約6割以上である。

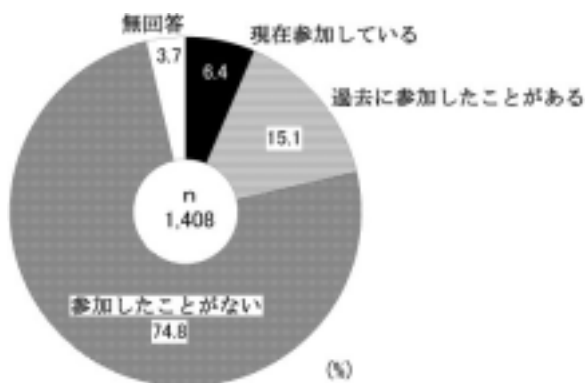


図 地域活動への参加経験

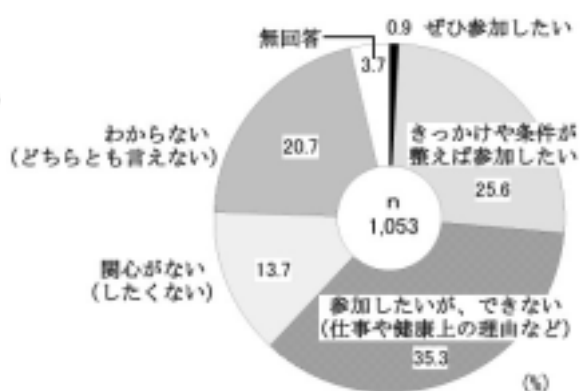


図 地域活動への参加意向

### 4) 永住意向について

「今後も江戸川区に住み続けたいか」との問いに、「住み続けたい」、「できれば住み続けたい」と永住意向を示した人が、全体の7割以上を占めており、多くの人が永住を希望している。

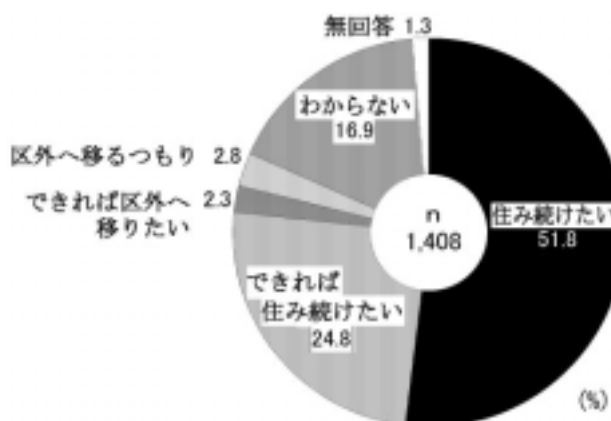


図 永住意向